



「第二次日本経穴委員会」便り

～第16回 朝日新聞報道後の反響～

第二次日本経穴委員会委員長 かた いしゅういち 形井秀一

2005年1月10日付の朝日新聞の一面に、日中韓でツボの位置がずれていたという報道がなされたことを記憶されている方は多いと思う。その報道後、第二次日本経穴委員会作業部会にはマスコミ等からテレビやラジオの出演などの依頼があった。

これまででも、月刊誌や週刊誌で鍼灸の記事が掲載されることはあったが、今回のような動きは、鍼灸界においては、きわめて珍しい現象であったと思われるので一連の動きを整理しておきたい。

表1のように、1月10日の報道以後、テレビ、ラジオの出演、新聞での報道などが相次いだ。

学会・業団での報告、講演等は必ずしも新聞報道の影響のみとは言えないものもあるが、報告をするきっかけの一部にはなっているであろうと考え表に含めた。それらをジャンル別にまとめると表2のようになるが、件数を合計すると16件になる。また、1月10日の朝のテレビ局での新聞を取り上げたニュースを入れると合計では、おそらく17～18回となる。さらに、朝日新聞の国際版をもとに、韓国でも数社が記事をトップページで報じており、すべてを合わせると20件以上となるであろう。韓国以外の国のニュースは分からないので、集計できないが、他の国でも取り上げている可能性はもちろんあ

る。先日、アメリカ合衆国の知り合いから、経穴の標準化の動きにアメリカの関係者も大きな関心を寄せていると教えられた。

また、1月10日の朝のテレビとその後の朝日の声欄、あるいは、諸外国の報道以外はすべて第二次日本経穴委員会作業部会の委員が取材を受けたり、出演したり、講演・報告を行ったものである。

鍼灸に関する記事が、マスコミで取り上げられる回数は医学分野に比べたら非常に少ないとかねがね嘆じていた。しかし、もちろん1つの新聞報道がこのような形で波紋を呼び、連鎖的に取り上げられた今回の一連の動きは、ツボがずれていたというセンセーショナルな取り上げられ方が一因であったとは考えられるかもしれない。

けれども、経穴は鍼灸の要の問題であるので、単なる興味本位で取り上げたというよりも、それなりのインパクトがあったために生じた疑問を純粹に当事者にぶつけようとする姿勢がマスコミには感じられた。その意味では、作業部会の委員も、その疑問を正面から受け止めて回答し、また、できるだけ回答内容に誤解を生じないで、正確に伝わるように心がけたつもりである。

今回の一連の現象が、経穴の標準化にどのよ

表1 1月10日朝日記事以降の経穴標準化関連報道等の記録

- ① 1月10日：朝のテレビ番組（朝の各局の新聞関係ニュース）で、ツボの位置が異なっていたと朝日新聞が伝えたことがニュースとして何社かに取り上げられた。
- ② 1月11日：フジ「めざましテレビ」でニュースとして取り上げる。（形井）（20分）
- ③ 1月12日：TBS「ウオッチ」で、3カ国で位置が異なることを取り上げる。（形井）（20分）
- ④ 1月14日：文化放送でインタビュー（河原、電話で生出演）（10分）
- ⑤ 1月21日付：朝日新聞西部版、声の欄、首藤傳明先生の文章掲載
- ⑥ 1月27日：TBS「はなまるマーケット」、「ツボの科学」（形井、森英俊、北小路博司、石崎直人、今井賢二）（20分）
- ⑦ 1月27日：毎日新聞（河原、北里大が取材を受ける）
- ⑧ 1月28日：朝日新聞東部版、声の欄、首藤傳明先生の文章掲載
- ⑨ 2月9日：JWAVE、FM放送、（篠原、電話で生出演 10分）
- ⑩ 2月15日：文化放送、斎藤一美SNAP、（形井、スタジオで生出演）（20分）
- ⑪ 4月1日：WHO非公式諮問会議報告、日本鍼灸新報（河原）
- ⑫ 4月9日：鍼灸のツボ 国際標準化を推進しよう、朝日新聞「私の視点」ウイークエンド（形井投稿原稿）
- ⑬ 4月17日：経穴標準化会議の経過、中間報告、全日本鍼灸学会東京地方会、於：鉄門講堂（東大）（形井、浦山）
- ⑭ 5月29日：経穴の国際標準化の動向と今後について、国際鍼灸専門学校学園祭特別講演（形井）
- ⑮ 6月10日：WHO経穴部位標準化会議における協議内容について、全日本鍼灸学会学術大会（形井、坂口、篠原、浦山）
- ⑯ 9月25日：全和歌山鍼灸マッサージ師会主催「第二回東洋医学フォーラム」[各国のツボ事情と鍼灸の適応症]（坂口発表）
- ⑰ 10月9日：WHO経穴部位国際標準化会議の報告、第1回 社団法人日本鍼灸師会 全国大会（浦山、河原）
- ⑱ 10月10日：WHO非公式諮問会議、日中韓代表者が討議、日本鍼灸マッサージ新聞770号

※表中の「WHO非公式諮問会議」は「WHO経穴部位に関する国際標準化に関する非公式諮問会議」の略

表2 マスコミ報道の種類と回数
(2005年1月10日～10月15日)

テレビ	3 (+3?)
ラジオ	3
新聞	4 (+2)
学会・業団報告	4
講演	2
合計	16 (+5)

※テレビの+3?は、朝日の報道当日の朝の新聞を取り上げるニュースの数が不明確なので、3?とした。また、新聞の+2は、同じ原稿が新聞の西部版と東部版の両方に別々に掲載されたので、+2とした

うな影響を与えたのか、また、日本鍼灸あるいは世界鍼灸の今後の発展にどのような意味を与えたのかは、年月が経たないと明確にはならないであろうが、現時点で、関連の報道や報告講演等をまとめてみた。

なお、『医道の日本』誌は、第二次日本経穴委員会発足当初から、15回の全作業部会、また、16回に及ぶ『便り』、さらに、5回の非公式会議等、この間の経穴国際標準化の国内の動きのすべてを記事にしてきたが、ここでは、『医道の日本』誌以外のマスコミについて言及した。